

農科小學入門

松本英忠著

全

282
2
15

K110.0
15

B 21

2569



許 免 權 版

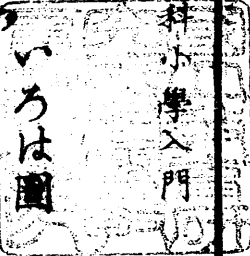
松本英忠著

農科小學入門

明治十二年
十月出版
文榮堂
有恆堂 梓



農科小學入門



松本英忠 編輯

た と	る は	へ へ	い い
れ き	を は	と と	ろ ろ
ろ そ	わ わ	ち ち	は は
つ つ	か か	り り	に に
ね ね	よ よ	ぬ ぬ	は は

ナ	夕	サ	カ	ア	五十音
ニ	チ	シ	キ	イ	
ヌ	ツ	ス	ク	ウ	
子	テ	セ	ケ	エ	
ノ	ト	ソ	コ	オ	

世 <small>勢</small>	み <small>ミ</small>	あ <small>阿</small>	け <small>キ</small>	の <small>ノ</small>	な <small>ナ</small>
す <small>ス</small>	し <small>志</small>	さ <small>サ</small>	ふ <small>フ</small>	れ <small>レ</small>	ら <small>ラ</small>
	る <small>ル</small>	き <small>キ</small>	こ <small>コ</small>	く <small>ク</small>	む <small>ム</small>
	ひ <small>ヒ</small>	ゆ <small>ユ</small>	江 <small>エ</small>	や <small>ヤ</small>	う <small>ウ</small>
	も <small>モ</small>	め <small>メ</small>	て <small>テ</small>	ま <small>マ</small>	る <small>ル</small>

バ	ザ	ダ	ガ	濁音
ビ	ジ	チ	ギ	
ブ	ズ	ヅ	グ	
ベ	ゼ	デ	ゲ	
ボ	ゾ	ド	ゴ	

ン	ワ	ラ	ヤ	マ	ハ
	井	リ	イ	ミ	ヒ
	ウ	ル	ユ	ム	フ
	エ	レ	エ	メ	ヘ
	ヲ	ロ	ヨ	モ	ホ

0	1	2	算用 數字	十
3	4	5		百
6	7	8		千
9				萬
				億

五	○	數字	ハ	次 清 音
六	一		ピ	
七	二		プ	
八	三		ペ	
九	四		ポ	

九	八	七	六	五
十	九	八	七	六
十一	十	九	八	七
十二	十一	十	九	八
十三	十二	十一	十	九
十四	十三	十二	十一	十
十五	十四	十三	十二	十一
十六	十五	十四	十三	十二
十七	十六	十五	十四	十三
十八	十七	十六	十五	十四

五

四	三	二	一	
五	四	三	二	一
六	五	四	三	二
七	六	五	四	三
八	七	六	五	四
九	八	七	六	五
十	九	八	七	六
十一	十	九	八	七
十二	十一	十	九	八
十三	十二	十一	十	九

加算九九の圖

「ストローベリー」は西洋にて廣く培養して食用に供するものにして、其味頗る賞すべし、之を栽培するものは、土地の種類を吟味して、培養の力を盡し、その勢の弱きものを取除きて、勢の強きものを以て、之に更ふることには注意するは、殊に肝要なりとす。○「ストローベリー」は、砂交りの真土に適するものなれば、犁耙耨等にて土を鋤き起し、之を均らして肥料を施すべし、また「ストローベリー」は、夏の末に至りて、實を結び終りたるときは、横枝を地上に發して、根を持ち舉ぐるもの

なれば、これを増殖するには、春早く鋤を以て、細根を切らざる様に掘り抜きて、土を振り落し、枯葉を取り除き、三尺計の距離に畦を作りて、一尺づゝ隔て、之を栽ゑ、これに土を覆ひて水を澆ぎ、厩肥又は堆肥等を施して、濕氣を保存せしめ時々萬能或は馬鋤の類を以て耕耘して、雑草の生長を防ぐべし。○「ストローベリー」は、横枝の蔓を發して、地上に蔓延すること甚だ多きがゆゑに、若し之を成育して、其數を増殖するの要なきときは、横枝の發する毎に之を切り去りて、土地

十	九	八	七	六	五
九	八	七	六	五	四
八	七	六	五	四	三
七	六	五	四	三	二
六	五	四	三	二	一
五	四	三	二	一	○
四	三	二	一	○	
三	二	一	○		
二	一	○			
一	○				
○					

四	三	二	一		
三	二	一	○	一	
二	一	○		二	
一	○			三	
○				四	
				五	
				六	
				七	
				八	
				九	
				十	

減算九九の圖

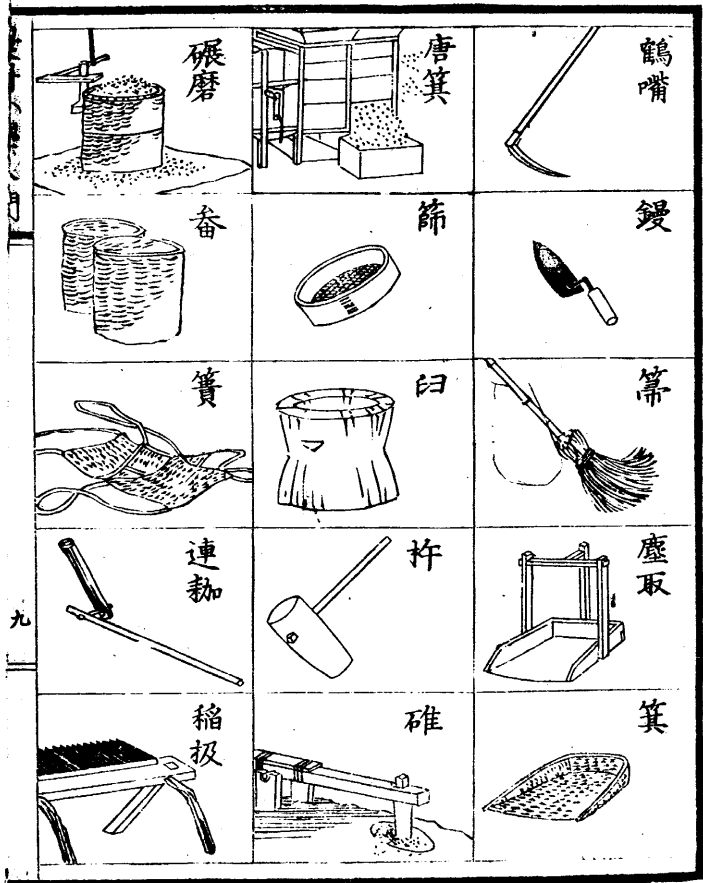
算術小書入門

六

乗算九九の圖

四	三	二	一
		四	二
	九	六	三
十六	十三	八	四
廿	十五	十	五
廿四	十八	十三	六
廿八	廿二	十四	七
卅二	廿四	十六	八
卅六	廿七	十八	九

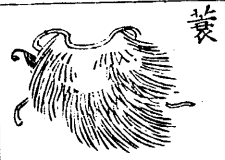
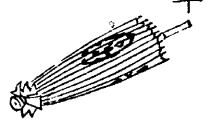


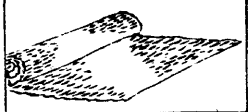
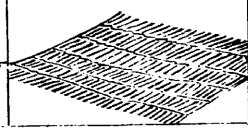
九	八	七	六	五
				廿五
			廿六	卅
		四九	卅三	卅五
	六四	五十六	四十八	四十四
八十一	七十二	六十三	五十四	四十五


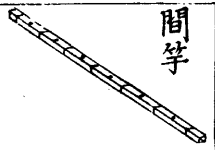


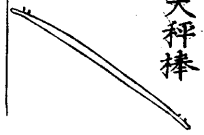



















單語圖
第一


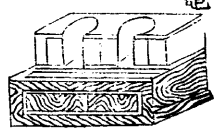








單語圖

第二

 籃	 麓
 筐	 俵
 傘	 繩
 草履	 席
 草鞋	 苞

 鋸	 間竿	 下駄
 鈍	 天秤棒	 雪踏
 鑿	 鉞	 杖
 錐	 斧	 撮
 釘	 手斧	 鋤簾

 <p>柄杓</p>	 <p>壺</p>	 <p>茶碗</p>
 <p>手桶</p>	 <p>庖刀</p>	 <p>皿</p>
 <p>桶</p>	 <p>俎</p>	 <p>鉢</p>
 <p>籃</p>	 <p>搯盆</p>	 <p>德利</p>
 <p>釣瓶</p>	 <p>箱</p>	 <p>杯</p>

 <p>土瓶</p>	 <p>竈</p>
 <p>樽</p>	 <p>釜</p>
 <p>舛</p>	 <p>茶釜</p>
 <p>膳</p>	 <p>鍋</p>
 <p>椀</p>	 <p>鐵瓶</p>

單語圖

第三


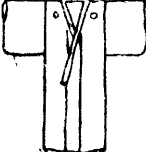

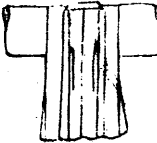






單語圖










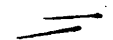





十一

單語圖

單語圖

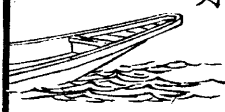
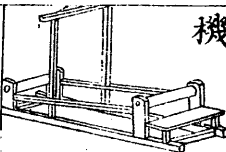
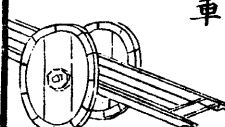
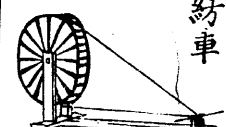
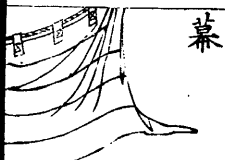
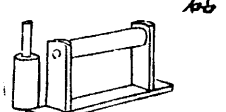



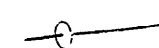
第四









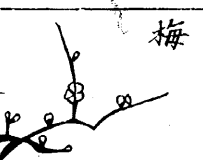



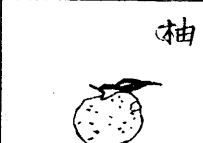
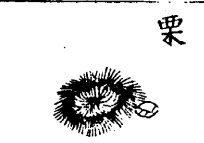

 <p>足袋</p>	 <p>著物</p>
 <p>帶</p>	 <p>羽織</p>
 <p>夜着</p>	 <p>袴</p>
 <p>蒲團</p>	 <p>襦袢</p>
 <p>蚊帳</p>	 <p>股引</p>





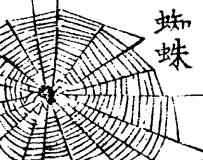










 <p>煙草盒</p>	 <p>提燈</p>	 <p>袋</p>
 <p>煙管</p>	 <p>燭臺</p>	 <p>風呂敷</p>
 <p>剪刀</p>	 <p>箕盤</p>	 <p>扇</p>
 <p>針</p>	 <p>鏡</p>	 <p>團扇</p>
 <p>剃刀</p>	 <p>櫛</p>	 <p>行燈</p>

單語圖

第五

 舟	 機
 車	 紡車
 幕	 砧
 蓆	 扇
 屏風	 紡繭

 梨子	 杉	 松
 桃	 扁柏	 竹
 林檎	 柳	 梅
 密柑	 桃	 椿
 柚	 栗	 櫻

鮪	蝶	馬
		
鯉	蜘蛛	牛
		
鮒	蜂	猫
		
鰻	蛇	犬
		
鱧	蛙	羊
		

雞	石榴	單語圖 第六
		
鳥	葡萄	
		
雀	枇杷	
		
鳶	蓮	
		
燕	百合	
		

連語圖

第一

親子	父母	伯父	叔父	伯母	叔母	兄弟	姉妹
親愛	女愛	孝順	人間	百行第一			
親子の間	親愛を主とす	兄弟	友愛を				
専ら	〇父母より仕て孝順なるは人間百行の本						
父と母	親の母を	祖母とす	親の兄弟を				
伯父叔父とす	親の姉妹を	伯母叔母と					

第二

學校	書物	手習	算術	夙起	夜寐	替古
言行	正直	信誼	謙退	少年		
幼きと老へ	學校より出で	書物を讀み	又手習			
す可し	〇讀み書の外	算術を學び	物を數ふ			
ることを覺ゆ	〇夙より起き	夜は寐て替古を勵				
むは少年の務なり	〇人と交るより	言行必し正直				
あつて	信誼を失はれ	謙退なるを要す				

の養分を本幹にのみ送りやる様にすべし、又冬期には、藁或は木葉等を以て之を被ひて、寒氣の害を防ぐこと肝要なり、

第十三章 「カーラント」グースベレイ

「カーラント」及び「グースベレイ」は、共に西洋諸國にて廣く栽培する小果木にして、其實酸味なり、此果木は、性質健強にして生長易く、その栽培も難からずして、夏早く多量の果實を結ぶものなり、○此二木は、共に挿木によりて繁殖するものにて、挿木法を行ふには、長さ六寸許に切斷し

て之を栽ゑ、冬になれば、藁を以て之を覆ひ、春に至りて之を取り去りて、能く培養を加へ、牛馬の糞料を與へ、剪枝法を施して、小枝を増加せしめ、以て果實を多く結ばしむべし、その實を結ぶは、多く二年目三年目の枝に在るが故に、古き枝は段々に切り取りて、新しき枝を増加せしむるを肝要なりとす、

第十四章 「ラスプベレイ」

「ラスプベレイ」は、深き真土に泥炭質物を混合して、之を栽うるを好しとす、砂性或は粘土質の土

第三

衣服 木綿 麻 絹 毛織 麩直 繭 單衣 惟子

衿 綿入 襦袢 羽織

衣服を作るにハ 木綿を第一とし 其他 麻 絹

毛織等もよしとも 其價廉直より久しきを保つこと

木綿不如也 ○木綿ハ綿より生一 絹ハ繭より製

するなり ○暑き時ハ 單衣惟子を着け 寒き時ハ

衿綿入を用う ○肌ハ貼くるハ襦袢よりして 表ハ服

するハ 羽織なり

第四

穀類 魚類 獸肉 鳥肉 野菜 菓物 水 乳汁

酒 烟草 滋養 塩漬 健康 勉強 養生 新鮮

穀類ハ食物の第一なり ○獸肉鳥肉ハ 滋養の功

あり ○魚類も 新鮮なるハよろし 雖とも 塩漬ハ

多分ハ食す可らけ ○野菜ハ 煮たるを食ふ可く 菓

物ハ 熟せざるを食ふ可く ○水と乳汁ハ 健康を

たまけ 酒と烟草ハ 養生ハ害あり ○勉強ハ 健康

より生り 健康ハ養生より來る ○養生の人ハ 食物と飲

物をえらむ 勉強の者ハ 朝寢と晝寢を戒む

第五

太陽晝夜 東西春夏秋冬 耕耘 梅雨
 抽穂 禽獸 貢租 餘暇 農具 闕損 于綱 油粕
 太陽のゆる間を 晝とつひ 隣をて後を 夜とつひ ○朝日の
 あるかゝハ 東より夕日の方へ 西より ○春の日ハ野へ
 出て 耕耘し 梅雨の候へ 秧を挿む ○夏ハ 田草を取る
 ことを第一とす ○秋分 抽穂小至りてハ 禽獸の害を防ぎ
 早中晩共小怠らに刈り收る ○冬ハ 蔵充て貢租の
 料小供ふ ○又餘暇あるときハ農具の闕損を補ひ于綱油粕
 其他の肥料を貯ふ可し

第六

府縣廳 知事 令 大少書記官 属 郡區役所 郡長
 區長 書記 戸長 總代 議員 地方税 協議費 出納
 過不及 得失 知識 學問 富有 家業 結集
 府縣廳へ 知事令 大少書記官 属 郡區役所へ 郡區
 長書記あり 一村一區へ 戸長總代ありて 各其職をたむ 其他
 府縣會 郡會 町村會の 議員あり ○議員ハ富有の者ありて 衆へ
 代り 地方税 又ハ協議費等の 出納を 議して 過不及ならしむ 議
 員となるに 知識なげきハ 衆人の得失を 熟知すること能はば 知
 識ハ 學問より生し 富有ハ 家業を勵む所の 結集なり

K110.6
15

農科小學入門 終

明治十二年十月廿二日

版權免許

大阪府士族

著者

松本英忠
東區伏見早二丁目
廿一番地

出版人

同
山平口恒七
東區北久太郎町四丁目
五十一番地

發兌人

同
前川善兵衛
東區南久寶寺町四丁目
三十五番地

小學農家讀本

松本英忠著 卷一二三

全三冊

同 字引

泰伊三郎輯 一二三

全壹冊

小學農科初步

全壹冊